

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2425 号

Triple-stapled quadrilateral anastomosis: a new technique for creation of an esophagogastric anastomosis

(新しい食道胃管吻合法：3本のリニアステープラーによる四角吻合)

石橋 雄次 (いしばし ゆうじ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

食道切除術における食道胃管吻合は技術的に複雑であり、縫合不全や吻合部狭窄などの縫合関連合併症は術後 QOL の低下につながる。食道胃管吻合には様々な吻合法が報告されているが、最善の吻合法については議論の余地がある。我々は新しい食道胃管吻合法として3本のリニアステープラーによる四角吻合 (Triple-stapled quadrilateral anastomosis: TRIQ 吻合) を開発した。本吻合法はリニアステープラーを用いた食道と胃管の側々吻合である。

食道切除、リンパ節郭清後、食道胃管吻合を行う。食道断端と胃管の先端をそれぞれ電気メスで切開したのち、食道後壁と胃管後壁に2本支持糸をかけ、支持糸の間を縦方向にリニアステープラーにて切離し、V字型の吻合部後壁を形成する。前壁は計画的に2本のリニアステープラーで閉鎖し、この際前壁が逆V字型になるように閉鎖する。これにより前壁、後壁がそれぞれV字型に形成され、吻合口は大きな四角となる。ステープラーラインは漿膜筋層縫合にて埋没し、大網で吻合部を全周性に被覆する。

2014年1月から2017年2月まで本吻合を施行した60例の患者を対象に術後成績を検討した。年齢中央値は67.8歳、術前化学療法を施行した症例は43例、手術時間中央値は474分、出血量中央値は104ml、平均術後在院日数は23日であった。Clavien-Dindo II以上の縫合関連合併症は1例も認めなかった。

本吻合法は安全かつ簡便であり、術後短期成績も良好であった。